製品名称	Continuum（コンティニュウム）	カテゴリー記号／エントリーNo.	J-3 ／ 2345
		サステナブル・プロダクト賞エントリー	有 ・ 無

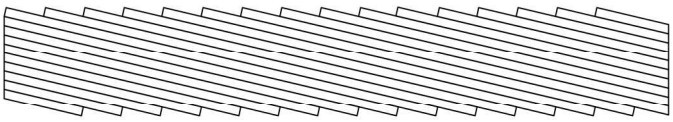
①ロングスケール(理論上は無限長)ながら低価格を実現(一般流通材を使用するため)

木材は一般的に4000mmまでが定尺であり、これを超えると材価が上昇します。

一般流通材であり座敷で用いられる廻縁(45×45×4000mm)を使用し、これを斜めに接ぎ合せることで、低価格化を実現しました。廻縁の4000mmをトリミング幅を考慮して最大になるように傾角を設定し、ロスを少なくする工夫をしています。

階段状に連続して接ぎ合せるために、色と目合いを吟味し時間をかけて製作します。

これにより現れる連続した斜めのテクスチュアは独特であり、理論上は無限長のカウンターが製作可能となります。即ち、**長さの制約からの解放**を意味します。

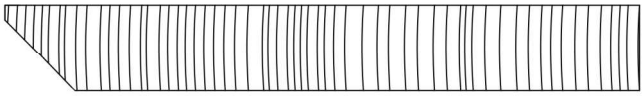


②柾目(ストライプ)の使用に加え、側面にテーパー処理を施すことで[Clean & Light]な仕上り

スギ・ヒノキ・ケヤキ等は(その名称を聞いただけで)和柄を連想させる強烈な[パワーワード]ですが、木目の特徴を顕著に表すのは板目であり、**柾目は単なるストライプなため空間(和洋)を選びません。**

柾目を積層(幅接ぎ)した場合、ジョイントラインを[ぼかす]効果があるため一見すると大きな板を切り出したように見せる効果もあります。

また、斜め接ぎ合せの宿命である400mmピッチの側面に現れるジョイントが煩(うるさ)いため、側面を数寄屋建築で用いられる刀刃(はっかけ)加工で、7mmのシャープな見え掛かりにすることでジョイントを意識させない工夫をしました。



③持続可能な人工林から生産される国産材のなかでも、目細・通直・色沢な吉野桧を使用(SDGs Goal15に適合)

持続可能ながら特殊な造林地域(超密植・過度な枝打ち・120年超の長伐期)である吉野産ヒノキを使用し、目細・通直・色沢な柾目が[古来からの日本人特有の美意識]を印象付けます(日本の書院・数寄屋などの伝統建築が求めた、天然林に負けない素材を人工林で生産する造林文化)。また、エディションとして**森林認証材(FSC)にも対応可能であり、SDGs Goal15にもより適合**します。

しかしながら、僅か25年の大壁工法の台頭で、真壁工法で使用されるこれらの木材が利用される機会は激減してしまいました。プレカット(大壁工法)率 26%(1994)→93%(2019)。

日本人と表裏一体の、だけど見過ごされてきた、あまりにも近すぎて、生活に溶け込みすぎていた「にほんの木」という総体を、半分瀕死だったものを、現代に何とか蘇生してそのままま、「にほんの木」の時間が動き出すようにしたい。

止まった時計の針を、再び動かせるようなものをつくりたいなと思っているんです。